

野研びより

昆虫編 5号

野外生物生態調査研究部 昆虫班

2015年12月



図 1. 木花台の街路樹で確認されたミノムシ (2015年12月20日撮影)



図 2. 木花台の街路樹で確認されたミノムシ (2015年12月20日撮影)

ミノガ科 *Psychidae*¹⁾

冬といえばあまり虫を見かけなくなる季節ではあるが、高い生命活動を維持したまま越冬する虫というのも少なからず存在する。そんな虫の中でも比較的目に付きやすい場所にいるのがミノムシである。ミノムシとはミノガ科のガの幼虫のことで、特にオオミノガの幼虫を指すことが多い。日本列島では20以上の種がミノガ科に属しているが、その多くは雄だけが羽化し、雌は蓑の中で一生をすごす。

ミノムシは、枝や葉に糸を絡めて蓑を作る。糸を作る生物といえば他にクモやカイコがいるが、ミノムシの糸はそれらの糸と比べても強靭でクモの糸の約2.5倍もの強度を持つといわれている²⁾。また、ミノムシの糸は何にでもくっつくという性質を持つため、毛糸くずや色紙で蓑を作らせるという遊びが広く知られてきた。

ミノムシは秋に蓑をつくるため秋の季語にもなっており、松尾芭蕉の俳句の中にも登場していて、昔から馴染みのある昆虫だったことがわかる。なお、前述したオオミノガは日本産で最も大きなミノムシだが、オオミノガにのみ寄生する外来種のオオミノガヤドリバエが入ってきたことにより、1990年代後半から激減し絶滅危惧種に認定されるようになってきている。

参考文献

- 1) ミノムシ-Wikipedia <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%9F%E3%83%8E%E3%83%A0%E3%82%B7#.E3.82.AA.E3.82.AA.E3.83.9F.E3.83.8E.E3.82.AC>
- 2) ミノムシ | ざつがく・どっと・こむ <http://zatsugaku.com/a/109>